



サーフィン先進国における大規模大会の運営実態調査 及び観光施策・地域活性化の可能性について



【1. 研修期間】

平成31年3月11日～17日（7日間）

【3. 研修の目的】

- ① 競技大会周辺で開催されるイベントに係る情報収集
- ② 競技大会の継続性に係る情報収集
- ③ 国際交流や観光誘客に係る情報を収集し、オリンピックサーフィン競技の成功及び今後の観光施策に繋げる。

【2. 研修先】

オーストラリア ニューキャッスル
シドニー
ゴールドコースト



環境生活部 オリンピック・パラリンピック推進局

開催準備課

副主査 梶原 公博

主事 倉持 進伍

事前キャンプ・大会競技支援課

主査 宮崎 順紀

商工労働部

観光企画課

主事 山本 俊介

観光誘致促進課

主事 桜田 果奈

【4. 調査結果】

①競技大会周辺で開催されるイベントに係る情報収集

- ・サーフィンのイベントは通常15時には終了してしまうので、ナイトタイムエコノミーは非常に重要と考えており、サーフィンイベントを発信企画する際には、「海」だけでなく、併せて「陸」のイベントも企画し、市全体を周遊してもらうような取組になるよう、意識している。

②競技大会の継続性に係る情報収集

- ・「サーフィンの町」というブランドを維持するのはあくまで市役所の戦略であり、それを地域のブランドとしていくため、市役所が大会費用を支出(州観光局から補助金を貰っている。)し、スポンサーの都合に大会の開催が左右されないような工夫をしている。

③国際交流や観光誘客に係る情報収集

- ・オーストラリア人の旅行スタイルは、「宿泊」を楽しむ傾向が高く、消費額も高い。「滞在環境」を重視する傾向がある。)他の外国人同様、Wi-Fi環境は必須と考えている。また、「桜」に興味を持っている方が多いので、開花予想などの情報発信があればより良い。

【5. 考察】

①競技大会周辺で開催されるイベントに係る情報収集

- ・サーフィンの大会だからと言ってサーフィンや海に関連するイベントに限定することなく、フードフェスティバルや地域のお祭りなど幅広い誘客を見込めるイベントと同時開催することにより、地域の魅力を発信することができる。

②競技大会の継続性に係る情報収集

- ・大会を継続するには適切な大会の規模感を選択することが大切であることに加え、地元自治体の財政支援が重要となることから、サーフィン大会を夏祭りや花火大会などと同様に街づくりの一環として継続的に取り組んでいく必要がある。

③国際交流や観光誘客に係る情報収集

- ・オーストラリア人の日本に対する興味は高く、訪日客数は年々増えている状況。更に、本年9月に「成田ーパース」便が新規就航する予定であり、就航によって訪日観光客の増加が見込まれることから、今がプロモーションをかけるチャンスと言える。まず、「千葉」の事を知ってもらえるよう、効果的な発信について検討するとともに、Wi-Fi整備等の受入環境整備に引き続き取り組んでいく。